

明智光秀と連歌

—「ときは今天が下しる五月哉」を例に—

「本能寺の変」の直前、

明智光秀が京都・愛宕神社の連歌会で詠んだ

発句「ときは今天が下しる五月哉」は、

「本能寺の変」を示唆したものである

有名な一句です。

また、明智光秀の盟友とされる細川藤孝（幽斎）は

連歌や和歌、茶の湯をたしなむとともに、

『古今和歌集』の解釈等を秘伝する

「古今伝授」を担った当代きっての文化人でした。

戦国武将たちにとって連歌などの文芸は

どのような意味をもったのでしょうか。

「ときは今」の句はどう解釈できるのでしょうか。

歴史学と国文学とを研究し

現代の「旅する連歌師」としても名高い

鶴崎裕雄先生にわかりやすくお話しいただきます。

日時

令和2年7月11日(土) 13時30分から15時(終了予定)

会場

古今伝授の里フィールドミュージアム
短歌の里交流館よぶこどり 研修室

講師

鶴崎裕雄先生(帝塚山学院大学名誉教授)

定員・申込み

定員 30名(先着順)・事前にお申し込みください

講演会
無料

関連展示 島津忠夫文庫所蔵和本より「中世の文芸・連歌—“愛宕百韻”を中心に—」

- 会期 令和2年6月3日(水)~8月31日(月) 9:00~17:00 ※ 会期中、火曜定休
- 会場 古今伝授の里フィールドミュージアム 和歌文学館
- 内容 室町後期から江戸初期の「連歌懐紙」、明智光秀が発句を詠んだ「愛宕百韻」参加者の文物、当時を代表する文人・三条西実隆や細川幽斎の文物等を展示。
- 入館料 高校生以上 320円 小中学生 110円 ※ 通常の入館料と同じです。東氏記念館・大和文化財収蔵展示館にも入館できます。
- その他 東氏記念館では、織田信長の「麒麟」の花押の文書や細川幽斎らの直筆短冊も展示中



お問合せ・申し込み先 古今伝授の里フィールドミュージアム

〒501-4608 岐阜県郡上市大和町牧 912 番地1 休館日/火曜定休・火曜日が祝日の場合は翌平日振替休館
長良川鉄道「徳永」駅から徒歩約 20 分、東海北陸自動車道「ぎふ大和」IC から車で約 7 分
電話 0575-88-3244 FAX 0575-88-4692 メール kokin@city.gujo.gifu.jp(表題を必ずご記入ください)

講演会に参加を希望される方は、必ず事前に電話・メール・FAX のいずれかで、住所・氏名・電話番号・参加人数をお知らせください。定員に達し次第、締め切ります。定員は、関係者をのぞいて 30 名です。

講演会への参加・展示のご観覧にあたっては、マスクの着用、入口での手指消毒、お客様同士の距離の確保等にご協力ください。施設内は換気をしていますので、必要がある方はひざ掛けや羽織るものをご持参ください。体調がすぐれない方はご遠慮ください。

展示会場の和歌文学館・東記念館等は、入館者数に制限があり、その人数を超える場合はお待ちいただきますので、ご承知おきください。今後の状況でやむを得ず中止となる場合は、HP などで告知しますし、講演会参加申込者の方にはこちらから連絡します。